

中・高校生対象

母子保健事業レポート
問 保険健康課 ☎84-0327

『乳幼児ふれあい体験』を通して

町では、今年3月に「子育てすこやか応援プラン」を策定し、少子化対策や子育て支援対策に取り組んでいます。

その中で、中学生や高校生といった年代において、子どもとふれあう機会がないまま親になってしまい、子どもとの接し方がわからず、子育てに悩んでしまうという問題への取り組みの一つとして行ったのが、中・高校生対象『乳幼児ふれあい体験』です。

夏休み期間を利用し、三歳児学級（教育委員会主催）に参加した親子のご協力により新たな思春期保健対策事業として実施しました。

思春期からの健康づくり

この事業は、思春期の自我を形成していく重要な時期に乳幼児とふれあうことで、命の尊厳や性の尊重について学



ふれあい体験の様子

び、これから新しい生命を生み育てていくことのイメージができるようになることを目的としています。

当日は、助産師・保健師の講師のもと、実際に乳幼児にふれあう前に、赤ちゃんの形やマタニティ体験スーツを使用し、妊娠期の体験や乳幼児期の特徴の学習を通して、

自分の成長の振り返りをした後、実際に乳幼児とふれあい体験をしました。

中・高校生の学び

乳幼児への関心の高まり

どう接していいのか最初は戸惑っていた中・高校生も、乳幼児とふれあい、遊ぶことで、乳幼児への興味や関心が高まるとともに、さまざまなことに気づきを得ることができたようです。泣いて訴え、思いどおりにならぬのが「赤ちゃん」であることを知ることで、「相手の気持ちや要求を知ろう」と素直に思えるようにもなりました。

また、しゃべることのできなかつた赤ちゃんが、2〜3歳にもなると、はつきりと意思表示をして会話が



どの絵本がいいかな

親の気持ちを理解

この年代は親をけむたがるなど、家族に対して思春期特有の感情が出てくる時期ですが、この事業はそんな中・高校生にとって、親の愛情に改めて気づききっかけにもなりました。

中には「子供のころを振り返って、自分も大事に育てられたのだと親に感謝することができました」という声も聞かれました。将来、父親や母親になる彼らにとって、貴重な体験となったことでしょう。

人のかかり方の基本を学ぶ

命の重さを実感
参加した中・高校生は「あまり小さい子どもが好きではなかったけど、今日で大好きになりました」と、乳幼児への愛着とともに小さな命の不思議さ、抱いたときのやわらかい肌のぬくもりを実感したようです。

今回の事業を通して、人とかかわり方の基本を学ぶ機会になり、やがては、人を愛することや、結婚、子どもをもつことの意味について考えるきっかけにもなりました。今後はこの事業をより多くの学生に体験してもらい、自分を大切にすることや他者を思いやること、健康や命を大切にすることを伝えて行きたいと思えます。

子育てワンポイント

79

◎赤ちゃんが泣き出すとイライラしてしまう…

A 赤ちゃんが泣いている時はいつでもだれでもうまく対応できるとは限りません。特に生まれたばかりのころは、おなかがすいているのか、眠いのか。

または、おむつを替えて欲しいのか、わが子なのに泣き続ける赤ちゃんをなだめるのは、大変です。いろいろ試してどうしようかと迷うこともあると思います。

でも、イライラした時は、ちよつとひと休みして深呼吸してみよう。それから次のことをやってみよう。

- ・オムツを替える。
- ・げっぷをさせる。
- ・ゆっくりと授乳する。
- ・寒すぎないか、暑すぎないかチェックする。
- ・抱っこしたり、おんぶしたりして気分転換する。
- ・病気がかかっているか、痛いところがないかチェックする。
- ・赤ちゃんに歌を聞かせたり、音楽を聴かせたりする。

・お散歩に行く
このようなことを落ち着いてやってみよう。

また、お父さん、お母さんの気分転換には、親しい人に話したり、保健センター、支援センターに電話したりしてみるのも良いでしょう。

カンの強い赤ちゃんでもいつかは泣きやむものです。泣いてばかりで困るというのも、だいたい生後2か月から4か月くらいには治まってくることが多いようです。赤ちゃんは、泣くことでコミュニケーションをとって成長していきます。

子育て支援センターは、生後3か月〜4歳までの未就園児の親が育児のおしゃべりをする場です。だれかに話すことで気持ちがホッとすることもあると思いませんか？

ひとり子育てするより、みんなで子育てをしましょう。

開成町子育て支援センター ☎82-1222

私

は、開成南小学校で二年生の担任をしています。今回は、開成南小学校の初めての運動会について報告させていただきます。運動会で二年生は、「ダッシュでGO!（五十メートル）」「きらきらやさいお届けします！（リレー走）」「はじけるムービングナウ（ダンス）」の三種目を行いました。

そ

の中でもいちばん大変だったのは、やはりダンスの練習でした。曲はみんなが大好きな曲でした。このダンスは、赤と白の二つのグループに分かれて時間差で動くことが多く、最初のうちは、横の友達につられて動いてしまふこともありました。そこで、しばらくは赤・白別々の部屋で練習をしました。回る方向やどちら側の手を先にあげるなど、細かい動作が全員揃うまで何回も練習しました。そして、二週目からは、練習のかがあって全員の動きが揃ってきました。

運

動会で、一組が青、二組が赤、三組が黄色のボンボンを持ち、バンダナをつけて踊ります。ダンスに

加え、二年生にとっては、バンダナをひとり結びすることも大きな課題でした。バンダナを結びただけでもみんな苦労し、何とか全員が結び終わったところで踊ってみると、途中でポロポロとバンダナが落ちてしまったり、ずれて顔が隠れてしまったり…。

生しレポート 今(11)
子どもたちは「運動会と子どもたち」

開成南小学校 和澤教諭

本

番は、自分でしっかりと結べるように、土曜・日曜日に家で練習してきてください。」という話をすると、みんな真剣な顔付きで聞いていました。

運

動会直前に、もう一度バンダナをつけて体育館で踊りました。その時は、途中でバンダナを落とす姿もなく、少し安心しました。そして、最後の練習のときは、

踊っている姿をビデオで撮影し、その後みんなで見ました。子どもたちにビデオを見た感想を聞くと、「動きがそろってるとかっこいい。」「列がぐちゃぐちゃだから、まっすぐになるようにしたい。」「列の意見が出てきました。特に、最後にみんなで円をつくりながら中央に集まるところは難しく、練習では全力で走って何とか間に合う状況でした。そして、運動会当日。難しい最後の場面もしっかりと決まり、とても感動しました。練習から運動会当日までの子どもたちの頑張りを、今後の教育活動にもいかしていきたいと思えます。

